

『News Letter 新名神（神戸～高槻） Vol.5』発行にあたって

日頃より新名神高速道路の建設事業、そしてNEXCO西日本の事業にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。  
8月30日の衆議院総選挙の結果、民主党の圧倒的勝利となり、自公政権から民主・社民・国民新党による連立政権に変わりましたが、日本の大動脈としての新名神の役割と意義は、いささかも変わるものではないと考えています。今後も引き続き早期開通に向け邁進してまいりますので、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

さて、8月には日本高速道路保有・債務返済機構との協定変更、そして国の事業許可変更の手続がなされ、新名神建設事業に『宝塚サービスエリア（仮称）』の整備が追加されました。関西都市圏の高速道路休憩施設は、西宮名塩SAに代表されるように混雑が著しい状況にありながらも大規模な改築は困難な状況にあり、更なるお客様サービスの強化と補完機能の充実を図る必要があります。

こうした中、本事業で発生する残土搬入個所である宝塚市玉瀬付近の搬入場跡地を有効に活用することによって、経済的に新たな休憩施設の設置が可能となりました。この宝塚SA（仮称）の追加整備により、新名神高速道路（神戸～高槻間）には、茨木北PA（仮称）と宝塚SA（仮称）の2箇所の休憩施設が配置されることとなり、これらが一体となって機能を果たすことにより、より一層のお客様へのサービス向上が図れるものと期待しています。

また、今回の広報誌では『チームしんめちゃんプロジェクト in 兵庫（みんなで守ろう！北摂の自然）』について紹介しています。我々は、緑豊かな北摂地域に新名神を建設するにあたり、その影響を最小限にとどめ自然環境保護の取組みをより確かなものとするために、NEXCOだけでなく、地域住民の皆様、地域文教施設、学識経験者、NPO・自然保護団体の方々と一緒に、みんなで北摂の自然を守っていこうというものです。今後、この取組みにご参画頂く方々の一体感や共感の醸成、活動のわかりやすさと親しみやすさを図る意味で、「貴重動植物の保護」及び「のり面等への植栽・緑化」を中心とした取組みをパッケージし、プロジェクトとして新たに命名したものです。

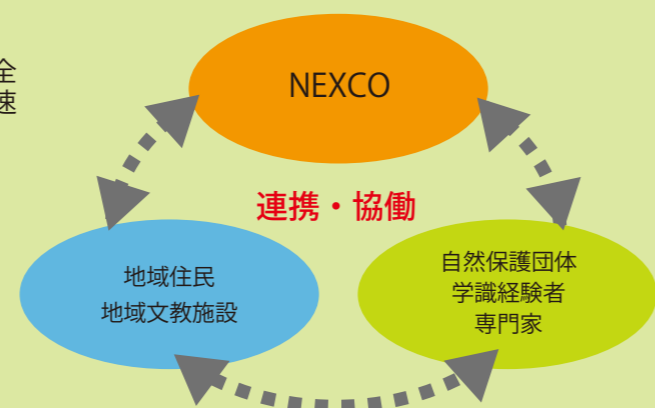
当事務所は環境保護に向けてより一層の努力を進めてまいります。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



NEXCO 西日本高速道路(株) 関西支社 兵庫工事事務所 所長 小笹 浩司

【チームしんめちゃんプロジェクト in 兵庫】

《チームしんめちゃんプロジェクト in 兵庫の概念図》



○目的  
新名神高速道路は、猪名川溪谷県立自然公園、北摂連山近郊緑地保全区域といった、緑豊かな自然環境に恵まれた北摂地域に建設される高速道路です。

「チームしんめちゃんプロジェクト in 兵庫」とは、新名神高速道路建設にあたっての自然環境保護への取り組みについて、事業者であるNEXCOだけでなく自然環境保護活動を行うのではなく、地域住民の皆様、地域文教施設、学識経験者、NPO・自然保護団体の方々と連携・協働し、みんなで北摂の自然を守っていこうと立ち上げたプロジェクトです。

○行動1：貴重動植物の保護  
新名神高速道路事業区域において、数多くの貴重動植物が発見されています。貴重動植物の保護にあたり、学識経験者、博物館、水族館、NPO・自然保護団体の方々にご指導いただきながら、地域の皆様、地域文教施設との協働により、保護してまいります。

《新名神高速道路沿線貴重動植物の一例》



ゲンジボタル

ナガレホトケドジョウ

○行動2：のり面等への植栽・緑化  
高速道路の建設で失われる地域の樹木を積極的に道路のり面に復元し、地域の里山景観の復元に努めます。また、周辺環境との調和や自然生態系の保全・復元が重要とされる箇所においては、その地域の自生種を苗木として高速道路のり面に植栽します。



シリーズ 新名神キーマンインタビュー（第5回）  
～猪名川町 建設部 新家 佳夫 部長を訪ねました～



Q1. まずは、新名神沿線の特徴や歴史などの紹介をお願いします。  
A1. 新名神高速道路が通過する付近には、豊臣秀吉の時代に栄えました多田銀銅山がございまして昭和48年まで採掘し閉山しましたが、その中心の「銀山」という地名が残りました。また、ここには間歩や代官所跡がございまして、町では平成19年4月に「悠久の館」を開設し、多田銀銅山の資料を展示しています。

昭和45年以降は町の南部地域を中心に阪急日生ニュータウンや猪名川パークタウン、つつじが丘住宅地の大規模開発が進み、開発着手前の7千人の人口に比べ、現在は約4.6倍の3万2千人を超える町として発展してきました。

本町は緑豊かな自然環境に恵まれ、平成20年度に行いました「まちづくりアンケート」でも、本町に住み続けたいとお答え頂いた方の約75%が「自然環境の良さ」を理由にされ、住環境の良さが最大の評価を得ておりますので、これを守り続けることが私たちに課せられた使命と考えています。

Q2. 新名神の整備により、猪名川町近くに川西IC（仮称）が設置されます。交通の流れの変化に伴い猪名川町にどのようなインパクトを与えるか、また猪名川町の発展に向けての新名神の期待をお聞かせください。

A2. 先般、貴社（NEXCO）が作成されましたコンピューターグラフィックスによる画像を拝見し、通過地区の景色が一変する大事業であることを痛感しました。住環境を守る必要があると申し上げましたが、この大事業の中でそれをどこまで反映させるかが地元にとってもある種の環境対策に繋がるのではと思っています。

新名神高速道路の整備に寄せる期待としましては、本町の近隣にインターチェンジが出来ることによりまして、とりわけ町南部地域の土地利用が高速道路による利便性の向上により、地域の活性化に繋がるものと考えております。

本町も大規模な住宅地開発事業の中で著しい人口増が得られたところですが、本格的な少子高齢化時代に突入した現在、ハード・ソフトの両面でまちづくりを展開しなければなりません。そういった点からも地域活性化の起爆剤として新名神高速道路の早期開通には大きな期待を寄せているところでございます。

Q3. 新名神事業を進める上で、弊社に対する要望などは何かございますか。また、事業を進める上での猪名川町の役割はどのようなことだとお考えでしょうか。

A3. 先ず、町の役割という点について申し上げますと、新名神高速道路が地域活性化の起爆剤になるように地元調整を含め、事業が前進するためにあらゆる手段を展開することに尽きると思います。そのために、この事業に対する町の基本姿勢としましては、「住み慣れた土地や家屋を手離し、去らなければならないという移転対象者の気持ち」に常に立ち、地元の理解を得ることが何よりも大切であると考えています。しかし、町は一方で事業を推進し、もう一方で地元の理解を得なければならないという相反する立場で事業を進めなければならないので、そのような点もご理解頂きたいと思っております。

また、新名神高速道路が通過することにより、町の活性化におおいに繋がったと実感できることが町として最も期待しているところでありますので、地域活性化に繋がることで貴社（NEXCO）のご理解が得られるものにつきましては、適宜お願い致しますし、逆に貴社（NEXCO）からの積極的なご提案もお待ちしております。

なお、本町だけに限ったことではございませんが、昨今の地方自治体がおかれております非常に厳しい財政状況も是非、ご理解頂きながらこの新名神高速道路事業が前進することを切望する所存でございます。



【写真】右：新家 部長  
左：インタビュー NEXCO 兵庫（工）三枝



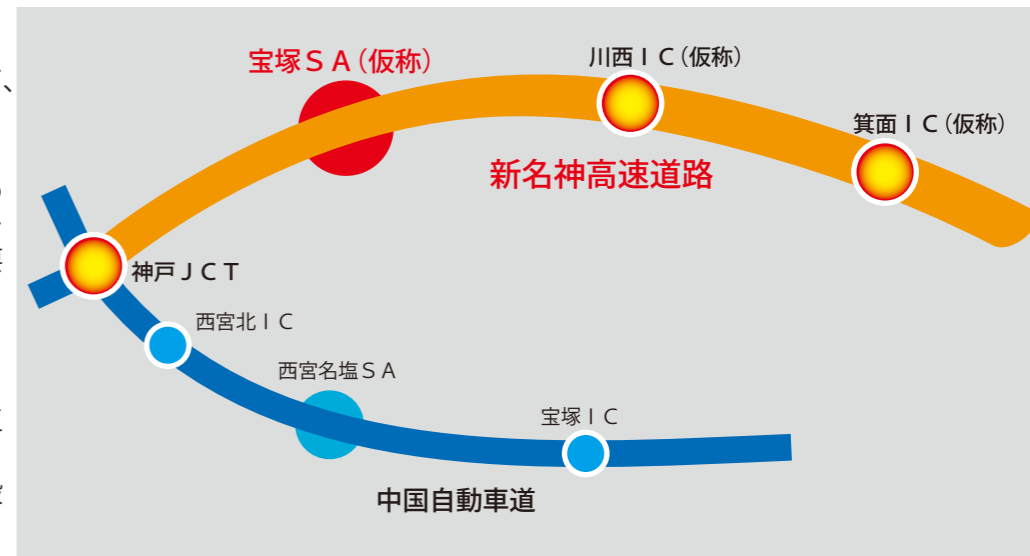
【写真左から】猪名川町建設部都市整備課 小坂筆頭主査、新家部長、塗家課長、中元室長、日下主幹

【宝塚SA（仮称）の新規追加について】

新名神高速道路（神戸～高槻間）の休憩施設について、平成21年8月10日の日本高速道路保有・債務返済機構との協定変更、平成21年8月28日の事業許可の変更により宝塚SA（仮称）が新たに追加されました。今回は、関西圏の休憩施設の現状と宝塚SA（仮称）整備の意義と役割を説明します。

○現在の状況と課題

現在、関西都市部の高速道路において、中国自動車道の西宮名塩SAに代表されるように多くのSA・PAが飽和状態であり、かつ大規模な改築は困難な状況であります。その様な中、更なるお客様サービスの強化、補完機能の充実を図る必要があります。



○宝塚SA（仮称）の意義と役割

新名神高速道路事業として、宝塚市玉瀬付近に本線外盛土をする計画があり、その跡地有効利用により新たな休憩施設の設置が可能になりました。宝塚SA（仮称）の追加により、新名神高速道路（高槻～神戸間）には、茨木北PA（仮称）・宝塚SA（仮称）の2箇所の休憩施設が設置されることとなりました。この2つの休憩施設が一体となって機能を果たすことで、お客様サービスの向上が図れるものと期待しております。